

「遊行柳」を歩く

二〇一一年五月、全面開通したばかりの新幹線で福島駅に参りました。駅前では福島県立医科大学の医学部、看護学部の学生さんたちが、被災した方たちの避難所のために、小雨の降る中で義援金を募る募金箱を持って街頭に立たれていました。まずは福島県へと思い、福島市内の宿泊施設が予約可能になった当日に、早速、福島駅前で一泊し、近くのお寿司屋さんで地元の方たちと地酒を飲み交わし、翌日はレンタカーで国道4号線を南下。福島市を出て二本松市の「黒塚」の謡蹟に寄ったあと、郡山、須賀川とすみ、白河から栃木県に入りました。ワキ（遊行の上人）が北上した道を逆に南下するコースです。

遊行柳の舞台は、旧奥羽街道、国道294号線沿い、栃木県那須郡那須町芦野にあります。芦野は福島県との県境で白河の関の白河市と隣接した地域です。旧奥羽街道が県道72号線から国道294号線に換わる辺りに位置します。国道294号線の芦野の南には伊王野市の道の駅があり、棚倉町に通じる黒磯棚倉線と大子町に抜ける大子那須線、白河市への坂本白河線、黒羽町から茂木町へと抜ける那須黒羽茂木線、と四本の主要地方道が交差する交通の要所です。ワキはこの伊王野のあたりから北上して柳の精と出会うわけです。

何代も継がれて来たという「遊行柳」の謡蹟は国道294号線から少し西に入った芦野温泉神社の鳥居脇にありました。柳の精が老翁の姿になって上人を案内したという話に相応しく、柳に通じる参道は満面に水をはった水田の中に一本まっすぐ神社まで延びていました。「遊行柳」は那須町指定史跡とされて大事に保存されるだけでなく、史跡入り口には地元の方が打つ手打ちそばのお店もあって、昔から地元の方の生活とともに存在してきたのだという印象を強くうけました。大きな災害のあと、私たちは先人が残してくれた文化財や史跡、地名までがいかに大切な財産であったかに気がつきました。また、それら目に見える有形の文化財と同じくらい、無形の芸能の中に込められたメッセージや長い時間の重みも、「遊行柳」の芦野の自然の風景の中に身をおいて、深く感じた旅でした。

平成二十三年 長月吉日

廣田幸稔



新幹線福島駅→
↓県道 72 号線標識



↑伊能山専称寺山門
建立は鎌倉期とされる



←「遊行柳」史跡



←古関蹟の碑（白河関跡）
寛政12年（1800）白河藩主松平定信が白河の関として建立した碑